



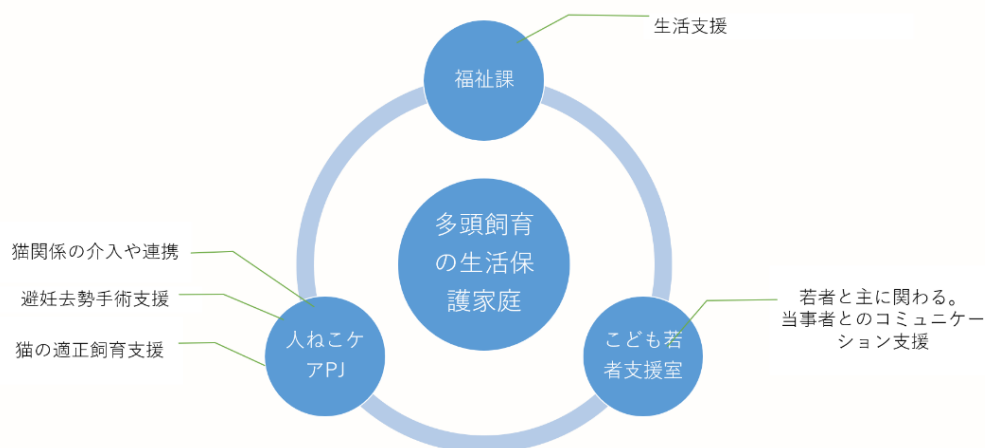
事例紹介

「人もねこも一緒に支援プロジェクト」を発足する最後のきっかけであり、最初に支援を行ったケースを紹介したい。猫から目線でいえば「猫の多頭飼育」、行政の福祉事務所目線でいえば「生活保護世帯」といえる、ある家族と猫たちの話である。

これはあくまで1ケースの事例紹介であり、すべての多頭飼育問題に通用する解決策を記述しているものではない。多頭飼育問題の「問題」も「介入方法」も多様である。それでも、この取り組みが何かのヒントになればいいと思い紹介することにした。

人ねこケアPJが係わるに至った経緯

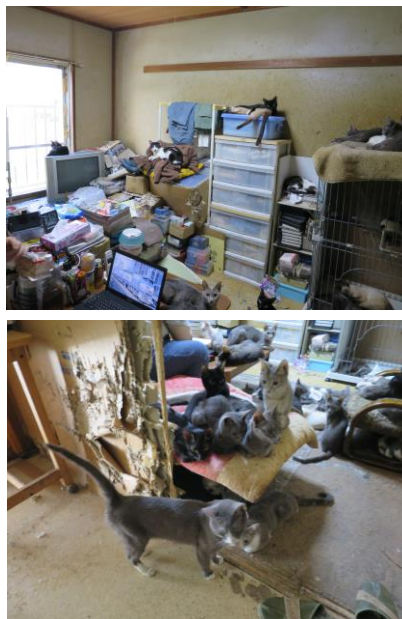
「若者支援機関」のカウンセラー（臨床心理士）が、担当している青年の家庭において、猫が2、30頭ほどおり、現在も増えている状況であることを危惧し、私に相談をしてくれた。その後、青年の家庭が生活保護を受給していることから、生活支援の主体である福祉事務所のケースワーカーより正式に協力の依頼があった。



家庭と猫の状況

家族3人暮らし（個人情報保護のため、一部改変しています）、約10年前にロシアンブルーのオス猫を飼育しはじめた。当時は生活保護を受給していなかったが、しばらくして突然の病気などが重なり、生活保護を受給するようになった。数年後、近所でノラ猫が出産し、その子猫2頭（メス）を室内に入れた。そこから室内で繁殖を繰り返していった。多産多死の状態が続き、初回家庭訪問時には77頭になっていた。初回訪問時の聞き取りによると、ひと月に3頭ほどのペースで亡くなっているが、それを上回るペースの出産がある。

室内の状況としては、襖など猫の爪とぎ跡による損傷が激しい箇所もあるが、床にゴミが散乱している様子もなく、荷物もある程度整頓されていた（猫の多頭飼育の場合、ゴミ屋敷問題がセットになっているケースが多い）。猫の飲み水も清潔な水が2か所に設置してあった。猫は室内ノラ猫状態ではなく、人懐っこく部外者の私にも物おじせず自由行動をしていた。適切な飼育環境とはいいがたいが、ご家族なりの猫への愛情は感じられた。



ねこが絡む問題

- ペット不可の市営住宅に住んでおり、すでに近隣住民から苦情が出ている。
- 生活保護受給世帯であるが、猫が77頭おり、飼育費への出費が多すぎる。
- 避妊去勢手術をしていないため、現在も増え続けている。
- 近親交配が進み、猫の状態が良くない。ネグレクト（動物愛護法）寸前である。

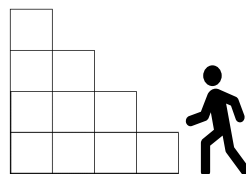
人ねこケアの介入方針

- 全頭に避妊去勢手術を実施し、長期的目線で苦情と飼育ゼロに近づける。
 - 避妊去勢手術をすることで、猫の尿の中でも特に刺激臭のマーキングが無くなる。また室内のメス猫の発情期の声を聞き、ノラ猫が家の外壁にマーキングする行動も抑えられる。また、近親交配により増えているため、体が弱く、平均寿命が3～4歳程度しかないため、5年で1ケタになる可能性が高い。

多頭飼育の場合、飼い主さんでも何頭いるのか把握できていないことが多く、まずは個体把握が必要だ。1頭ずつの猫プロフィールを作ることができればベスト、せめてオスメスのおおよその頭数を把握したい。それをもとに、避妊去勢手術にかかる予算を算出したり、無料避妊去勢手術の支援申請をしたりすることができる。目標を階段式に捉えると以下のように細分化することができる。

- ・全頭の不妊手術をしたい
- ・不妊手術ための個体把握をしたい
- ・個体把握をするための準備をしたい
- ・お家に介入するため、適度な信頼関係を築きたい

これを、下から一段ずつ登っていく形で介入を行った。
いくつかエピソードを紹介する。



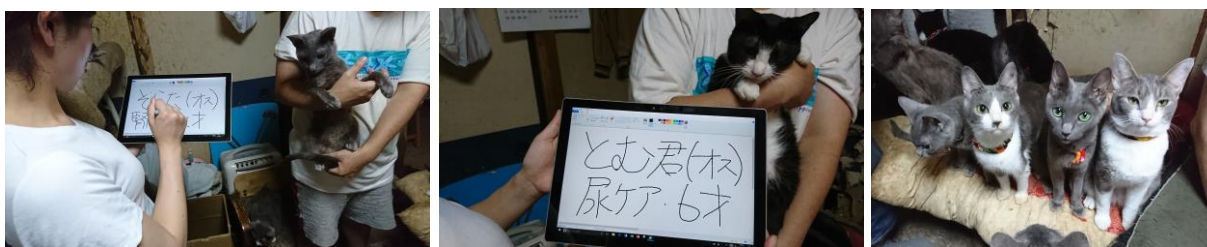
首輪づくり

ケースワーカーさんに同行した初回訪問で、猫たちの状況をご家族から見聞きし、猫たちがとても人懐っこいことが分かった。そこで、猫の個体把握は、赤と黒の簡易首輪を使って実施することにした。首輪は、購入するのではなく知り合いの動物看護師さんが手作りで作っていた簡易首輪を参考に手作りする事にした。ケースワーカーさんとカウンセラーさんと一緒に家庭訪問し、ご家族と一緒に作業をすることで、皆で取り組んでいるという感覚の共有と、雑談をすることで、ご家族の理解や関係性の構築に役立つと考えた。実際、作業時間は色んな話が出たり、器用な面が分かたりして面白いひと時だった。1時間と決めた作業時間で、予定の半分程度しか作成できなかったが、翌日ご家族だけで残りをすべて作ったと電話をしてくれ、とても嬉しかった。



ねこプロフィールの作成

人ねこケアPJ2名と、ご家族と協力し、ねこプロフィールを作成した。作った首輪を使って、1頭ずつ写真をとっていく。ご家族の1名が猫を抱っこし、もう1名が性別や年齢を言い、人ねこケアPJメンバーの1人がPCに記入、残りの1人が首輪をつけ、写真を撮影。全頭に首輪がつくまで繰り返した。ご家族の見立てでは30頭くらいでったが、実際に集計すると、76頭いることが分かった（のちに77頭だったことがわかる）。飼い主さんのイメージより猫が倍数近くいることは多頭飼育ケースではよく聞く話である。



オス	メス	去勢済み	避妊済み	計
39	35	2	0	76

子猫	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳
6	5	11	18	11	10	11	1	0	0	1

シャム	キジトラ	グレー	白灰	白黒	黒	白	キジ白	サバ白	サバトラ
9	6	21	14	7	14	1	1	2	1

脳性マヒ	尿ケア	腎臓ケア	内臓疾患	てんかん
4	20	2	1	1

（公財）どうぶつ基金「さくらねこ無料不妊手術事業 多頭飼育崩壊支援」への申請

一般病院で猫の避妊去勢手術を受けさせようと思うと、1頭あたり1万円～3万円ほどかかる。手術前に血液検査やワクチン接種を義務付けている病院であればさらに1頭あたり2万円かかる場合も。1頭2万円と仮定しても76頭いれば152万円かかることになる。のらねこの不妊手術専門病院や動物愛護団体が経営している病院であれば1頭5,000円程度で実施してくれるが、それでも76頭いれば38万円ほどかかってしまう。そこで、今回は、公益社団法人どうぶつ基金が実施している「さくらねこ無料不妊手術事業 多頭飼育崩壊支援」に申請することにした。諸条件を満たし、審査に通れば、どうぶつ基金の協力病院で全頭分の不妊手術を無料で受けることができる。必要書類を作成し、飼い主に説明の上、同意をもらい申請を行った。

ベランダのゴミ掃除

マンションの1階が自宅であることから、ベランダにつまれている段ボールなどの荷物
に、ノラ猫がおしっこやマーキングをしており、強い臭いがした。そこで、近隣への臭い
被害軽減のためベランダのゴミの撤去・掃除を実施した。作業に取り掛かると段ボールの
1つに足長バチが巣をつくっていたことが判明。私はかなりひるんだが、飼い主さんが殺
虫剤で撃退してくれた。ハチにビビる私は、書
類関係の説明を室内で行い、カウンセラーさん
と飼い主さんで撤去作業にあたってくれた。出
てきた粗大ごみは、サイズを確認し、作業完了
後、ケースワーカーさんに報告に行き、粗大ご
み引き取りシールをもらうための申請手続きを
準備してもらった。



支援物資を届ける・Amazon 欲しいもののリストを作成

どうぶつ基金への申請が受理され、「京都ゼロの会」という京都市内の動物病院で、一
斉避妊去勢手術を約1ヵ月後に実施してもらえることが決まった。1日病院を今回のケー
スの猫たちの手術に空けてくださり、1日で全頭の避妊去勢手術を実施する。当日は大変
ではあるが、何十回に分けて動物病院に運んでいたら日数がかかりすぎてしまう。また、
少しずつ時間を空けて実施すると、全頭の避妊去勢手術をすると決めたはずの飼い主さん
の心が揺らいでしまう可能性もある。そうしてゆっくり進めているうちに、また新たな出
産が始まり・・・という後退の危険性も出てくる。そこで、今回は一度に全頭の避妊去勢
手術を実施することにした。

手術まで1ヵ月と決まり、なるべく手術の負担を軽くするために、痩せている猫たちを
太らせ体力をつけることにした。Amazon 欲しいもののリストを作成し、人ねこケアPJの
Facebook や HP で支援を呼びかけた。届いた支援物資を3回に分けて合計70kg ほどのキ
ャットフードを届けた。動物病院へ猫を運ぶ際に必要な洗濯ネットやペットシートなども
同様に寄付を募った。ケージはどうぶつ基金と、協力してくださったボランティアさんか
らお借りし、76個用意した。



一斉避妊去勢手術

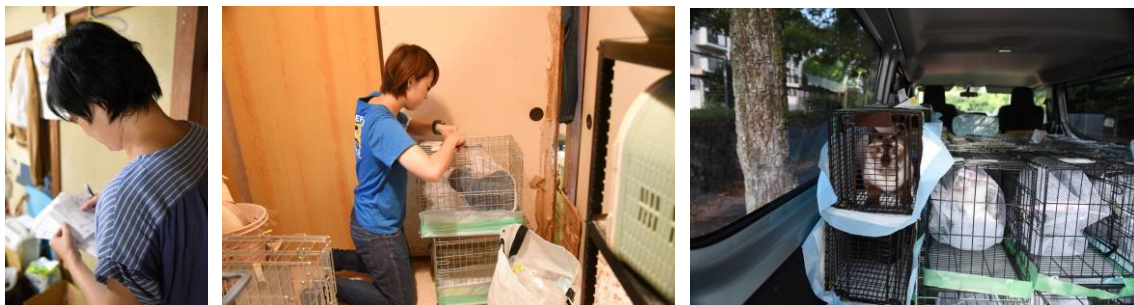
●事前説明

一斉避妊去勢手術の前日にスケジュールと注意事項を渡して説明した。

ねこさん手術スケジュール	手術の注意点
8月27日(日) 16時 10匹だけ、動物病院へ連れていきます。猫にねこはんを、朝早くにあげてお昼やおやつは見えないでください。 20時 20時ごろまでに猫に晩ご飯をあげてください。それ以降は、絶食してください。 8月28日(月) 7時 猫さんたちを、みんな動物病院へつれていきます。猫はんやいですが、1日で手術をおこなうために朝早くから獣医さんが頑張ってくれるので、ご協力をお願いします。 ねこはんはあげないでください。 20時(予定) 手術が終わった猫さんたちをお家につれて帰ります。手術の通み具合で、はやくなったり、おそくなったりする可能性があります。 この日はご飯をあげないでください。29日の朝からご飯をあげてもらって大丈夫です。	オスもメスも、みんな手術をします。 手術当日にぐっすりしている猫以外は、いったん動物病院へ連れていき、獣医さんに診察してもらい、手術をするかどうか判断します。 手術を受ける12時間前から絶食します。 手術をする時にかかる麻酔は、吐き気をもよおすことがあるため、おなかに食べ物が入っていると窒息の危険があります。なので、手術の12時間前から絶食してください。 手術から帰ってきた日は、絶食絶水です。 手術を受けたばかりでは、おなかの調子が良くないので、ごはんもお水も与えないでください。手術の時に、点滴で水分を体にいれているので、脱水症状にはなりません。 耳先カットをみんなにします。 手術を受けたらとして、耳先にV字の切れ込みをいれます。手術費用を「公益財団法人どうぶつ基金」という団体に負担してもらっており、その条件として耳先カットはしなければいけません。 術後は安静に。 手術から帰ってきて、数日は体調が悪そうになる場合があります。でも、あまりに困っているように見える場合は、近くの動物病院へ連れて行ってあげてください。

●猫の搬出

1頭ずつ猫の名前を確認し、ケージに入れタグをつけていく。ハイエースで2往復し動物病院に搬入した。ご家族から猫を受け取る直接の対応はカウンセラーさんがメインで担った。



●避妊去勢手術

動物病院に搬入し、手術器具洗いや術後ケアを人ねこケアのボランティアで担った。半数の猫が手術後に麻酔から覚めた時点で、お家にリターンした。里親に出せそうな子猫4頭と母猫1頭のエイズ・白血病検査を実施した。



子猫4頭を新しい飼い主に譲渡

一斉避妊去勢手術の際に、生後4、5か月の子猫4頭のエイズ白血球検査を実施したところ、3頭がエイズ陽性、白血球は全頭陰性であった。生い立ちや、エイズ陽性であることを説明したうえで、4頭の新しい探しを実施し、譲渡した。

【譲渡の流れ】Webサイト「ペットのお家」に掲載⇒希望者から連絡がある⇒電話とメールで家庭環境、先住猫の有無を確認し飼い主候補者を選出⇒家庭でのマッチング期間として、トライアルを約2週間実施⇒再度訪問し、問題がなければ譲渡証を交わし正式譲渡として所有権を移行。



新しい飼い主さんから送られてきた写真

お金の状況

- ・HPにて、物品寄付（Amazon 欲しいもののリストを作成し紹介）を呼びかけた。

区分	内容	科目	詳細	金額	
費用	事業費	消耗品費	首輪用紐等	¥648	現金
費用	事業費	消耗品費	首輪用紐等	¥1,512	現金
費用	事業費	消耗品費	養生テープ	¥408	現金
費用	事業費	消耗品費	セロテープ等	¥596	現金
費用	事業費	消耗品費	ペットシート等	¥4,706	現金
費用	事業費	獣医療費	エイズ白血球検査費5頭分	¥15,000	現金
収益	その他収益	物資寄付	M様（キャットフード）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	N様（キャットフード）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	K様（キャットフード）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	匿名（'ビニールシート×5）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	匿名（'洗濯ネット×20）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	K様（洗濯ネット×54）	¥0	物資支援
収益	受取寄付金	寄付金	D様	¥6,500	現金
収益	受取寄付金	寄付金	O様（里親さん）	¥5,000	現金
支出				¥22,870	
寄付				¥11,500	

- ・一番高額な避妊去勢手術費は（公財）どうぶつ基金の事業を利用し無料で済んでいる。
- ・一斉避妊去勢手術に際して使用したハイエースのレンタル費、ガソリン代は、協力してくださったボランティアさんが負担してくださった。
- ・交通費はそれぞれ自己負担している。

多くの方がボランティアとして協力してくださったことにより、なんとか乗り切れた。

スケジュール

今回紹介した内容がどのくらいのペース配分で進んだのか、下記にスケジュールをまとめた。

日程	実施内容
6月1日	ケース会議 ケースワーカー、支援コーディネーター、人ねこケアの3者で実施。情報の共有と方針の話し合い
6月5日	初回家庭訪問 ケースワーカーさんに同行し、家庭訪問を実施
6月12日	第2回家庭訪問（首輪づくり） 個体把握のための首輪を当事者家族とケースワーカーさん、支援コーディネーターさん、人ねこケアで作成
6月25日	第3回家庭訪問（個体把握） 作成した首輪をつかって、猫プロフィールを作成。人ねこケア2名と、当事者家族と実施。76頭見つかる
7月24日	Amazon欲しいもののリスト作成 キャットフード、ビニールシート、洗濯ネットの支援を呼びかける
7月25日	第4回家庭訪問（ベランダのゴミ撤去・申請書作成） ノラ猫のマーキング場所になっていたベランダのゴミを足長バチの巣ごと撤去。支援コーディネーターさんと当事者家族が実施。 どうぶつ基金の無料不妊手術支援を受けるために申請書を作成し、内容を説明をしたうえでサインと同意をもらう
7月26日	どうぶつ基金無料不妊手術支援申請
	第5～7回家庭訪問（物資支援・猫を太らせる） 7月30日、8月2日、8月20日、支援フードを届ける。猫の体調チェック
8月25日	第8回家庭訪問（事前説明） 一斉避妊去勢手術にむけ、当日の猫の搬出搬入の流れや、猫の絶食等の説明
8月27,28日	一斉避妊去勢手術実施 27日に10頭、28日に64頭の避妊去勢手術を京都ゼロの会で実施
8月30日	第10回家庭訪問（猫の体調チェックと子猫の写真撮影）
8月31日	子猫4匹里親募集開始
9月9日	子猫4匹トライアル開始
9月23,24日	子猫正式譲渡

ご家族のお話

人もねこも一緒に支援プロジェクトとして始めた関わったケースの経過を紹介した。手探りの状態での支援のため改善の余地は沢山ある。また、避妊去勢手術が終わっただけで、

ご家族と猫の生活は続いている。今回このマガジンを書くことをきっかけに、飼い主さんご家族に今回の取り組みをどう感じたか、これからどうしていきたいかなどぶっちゃけた意見を教えてもらおうと思った。

小池：これまでを振り返って、なんでもいいのでご意見ください。

- いろんな「人に猫を保健所に引き取ってもらえ」とかなりきつく言われて、限界がきていた。もうどうしようもないと思って保健所にも電話したが、引き取り料が1匹 6000 円と高額で無理だった。藁にも縋る思いで愛護団体なども調べたがやはり引き取り料があった。自分たちではどうしようもない状態になってしまっていた。つながることができて本当にありがたかった。
- もとはと言えば、猫の交配を防げなかった自分たちの責任だということはよくわかっている。でも、ずっと一緒に生活してきているこの子達は家族。殺せと言うが、自分の子でも兄弟を殺せと言われていたような気持ちだった。
- ここで、お産をして、子猫がそだっていく様子を見て、『ああ自分たちと一緒になんだなあ』と思った。「この子たち」というと外の人には「ただの猫だろ」というが、自分たちにとってはそうじゃない。

小池：初めてお会いしてから手術完了まで、2 か月とかなり早いペースで進めてしまいましたが、実際困ったり、改善してほしかったことはありますか？

- ペースは問題なかった。自分たちではどうしようもなかったのも、いろいろ進めてくれるのはありがたかった。
- 全頭に避妊去勢手術をするということで手術したが（体調が深刻だった2 頭は手術していない）やっぱり、命を縮めてしまったんじゃないかと思う子は何頭かいた。それが辛かった。そんなこといつてたらずっと手術できないのは分かるけど、やっぱり手術したから死ん じゃったんじゃないかという後悔があった。
- 子猫4 匹を里親に出せてよかったと思う反面、ふとさみしくなる。
- 今いる子達は最後まで看取ってやりたいと思う。
- 同じような状況の人にアドバイスするなら「不妊手術だけは早くしといた方がいい」といってあげたい。

まとめ

避妊去勢手術や子猫の里親探しといった目的は達成されたが、猫とご家族の生活はこれからも続いていく。人もねこも一緒に支援プロジェクトとして、これかの経過も見届けていきたいと思う。

おわり



小池英梨子

NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク

「人もねこも一緒に支援プロジェクト」 プロジェクト代表

「ねこから目線。」としてフリーでも活動中。